

「コロナ禍の外国人」調査活動報告

第15回中部NGO-JICA中部地域協議会

2021年2月18日

東海市民社会ネットワーク愛知幹事会有志

経緯

- 2020年1月 第14回中部NGO-JICA中部地域協議会の協議で外国人支援2団体が「外国人抱える課題とNGOの取り組み」について発題した。これはJICAが外国人材に関する取り組みを始めることに呼応していた。また東海市民社会ネットワークから2人の幹事が陪席した。
- 2020年2月 地域協議会の今後についてのNGO側会合（9人出席）シンポジウムが提案された。
- 2020年9月 東海市民社会ネットワーク愛知幹事会主催による「外国人の課題と取り組みについての学習会」開催（12人参加）
- 2020年12月 愛知幹事有志で調査活動を実施することになった（愛知幹事会有志と名古屋NGOセンター政策提言委員）

調査活動概要

(目的)

- コロナ禍などで取り残された外国人支援のために
 - 市民の啓発、共感の醸成を促進する。
 - そのために異なる分野の**NGO, NPO**や行政（**JICA**含む）との連携によって進める。

(内容)

- 外国人支援、多文化共生を進めている地域(愛知、三重、岐阜)の団体、個人にヒアリングする。
- 外国人の課題に関する学習会(2020年9月実施)で得られた情報を整理し、参加団体に追加のヒアリングをする。

調査活動概要

- 質問項目

1. コロナ禍の外国人への影響(健康、安全、雇用、生活、教育)を明らかにする。

- ①外国人住民からの相談・問い合わせの内容

- ②課題事例の収集

- 2.外国人支援団体の取り組み

- ①取り組み内容

- ②行政など他セクターとの連携とNGOの強み

- ③JICAへの期待

- ④市民の共感を醸成するための活動内容

調査活動概要

- 期間：2020年12月14日から1月15日
- 調査方法：対面、またはオンライン
- 調査員：三ツ松、古澤、中島、八木
- 調査対象の団体、個人： 計9
 - 愛知 ー 多文化共生リソースセンター東海、外国人ヘルプライン東海、インドネシア民主化支援ネットワーク、名古屋YWCA日本語学校、名古屋YWCA日本語教師養成/外国人子ども支援・外国人家族支援、国際子ども学校、神田すみれさん
 - 三重 ー 日本ボリビア人協会
 - 岐阜 ー 可児市国際交流協会

ネットワークNGO,外国人支援団体にとっての意義、メリット

- 外国人支援団体にとって
 - 国際協力、まちづくり、環境の活動などの他分野の経験を、外国人支援のために用いることができ、そこに関わるネットワーク団体または個々の現場を持つ団体と協力関係ができる。
- ネットワークNGO（名古屋NGOセンター/東海市民社会ネットワーク）とその加盟団体にとって
 - 通常の活動では得られない外国人支援・多文化共生分野から新たな団体、個人の参加が期待できる。
 - より広い、課題を超えたつながりができて、政策提言力が強まる。
 - 外国人の支援を通して社会の一番弱くされた人々への支援の在り方から他分野の団体が学び、自分たちの問題解決につなげることができる。

結果（影響）

- 怖くて企業の不正などを申告できない外国人労働者
- 孤立する外国人(例 地域とつながりのない技能実習生、情報が届かない)
- 公的支援制度(定額給付金、生活保護など)が受けられない外国人(情報格差、日本の制度の限界)
- 外国人コミュニティにおける新型コロナ感染拡大
- キャリアパスが描けない(労働者、こども)
- 心が病んでいる(対応できる専門家が少ない)
- 外国人のこども—公的支援(包括的教育支援)が整っていない
 - 過年度生(教育につながっていない子ども)増加、引きこもり勝ちの子ども
 - DVと妊娠のケースカウンセリング要望が増加
 - 不登校の子どもたちに日本語だけ教えていても自立につながらない

結果(JICAへの期待 ー技能実習生)

- 労働者に対し契約や環境について事前に周知し、労働者と雇用主の互いがルールを守るようにする(来日前オリエンテーション)
- 中小企業が受け入れ前後の相談ができる仕組み
- 中小零細企業の人権意識を向上させる取り組み
- 企業に対し労働者として質が保証された日本語教育が必須のものとしての認識を高める取り組み
- 情報格差、孤立した労働者、実習生をなくす取り組みを
- オーバーステイになる前にOTIT(外国人技能実習機構) への申告をするよう情報提供、支援をする
- 技能実習生のキャリアパスをつくる

結果(JICAへの期待 ー技能実習生)

- 自治体へのアドバイザー配置。心の相談、専門家によるカウンセリング
- 異なる外国人コミュニティ同士の経験共有・交流の場づくり
- 団体組織の問題解決能力強化（公的サービスを利用できない孤立した外国人に対応可能など）
- 受容側(市民、企業)の意識変革。受け入れ側が外国人を変えようとするだけでなく、外国人を自然に受け入れ、外国人が普通に暮らし、働けるように市民、企業(雇用主、従業員)の共感を醸成する。

結果（NGOの強みと役割）

地域と外国人を橋渡し、地域と共に解決する。
最初の窓口、フォローアップ・最後のセーフティ
ネット

縦割り行政下でコーディネーター的役割

NGOとJICAの連携による事業案 (市民・企業の啓発活動)

1 シンポジウム

- テーマ：責任ある外国人（労働者）受け入れ、または日本社会の外国人（労働者）の受容
- パネリスト：責任ある外国人受け入れプラットフォームの関係者、多文化共生に取り組むNPO、企業(トヨタ自動車などプラットフォームに関連した企業)、外国人技能実習機構、自治体、外国人コミュニティ
- 内容：課題の明確化。NPO,NGO、企業の成功例の紹介。JICAの外国人材・多文化共生の取り組み紹介

2 異文化エキスポ

- テーマ：外国人の異なる文化を受容する意識変化につなぐ
- 内容：
 - ・各国文化紹介 — 各国の外国人コミュニティによる文化紹介とそれに対応したJICAボランティアによる活動紹介など
 - ・各国料理による世界ツアー — プロの料理人が各国の在日外国人とタッグを組んで各国料理を市民に提供